

まつだい MATSUDAI

2002

3

No.508

平成14年3月15日



のつとれ！松代城第15代の新城主に下山の宮沢健二さん(19)
「スキーもオリンピックをめざしてがんばるぞ！」

主な内容

- 合併に関する住民意向調査から…②～⑤
- 路線バスについて……………⑥～⑨
- 雪国農耕文化村センターの概要…⑩～⑪
- 雪掘りボランティア……………⑫～⑬
- 越後田舎体験／農業……………⑭～⑮
- 登場／できごと……………⑯～⑰
- 東京発／松代の自然……………⑱～⑲
- 学校完全週5日制／ごみの出し方ほか…⑳～㉑
- 文芸・お知らせ・町の行事予定…㉒～㉓

■松代町役場

〒942 1592 新潟県東頸城郡松代町大字松代3252番地 1

TEL 02559-7-2220

FAX 02559 7 2526・7 2300

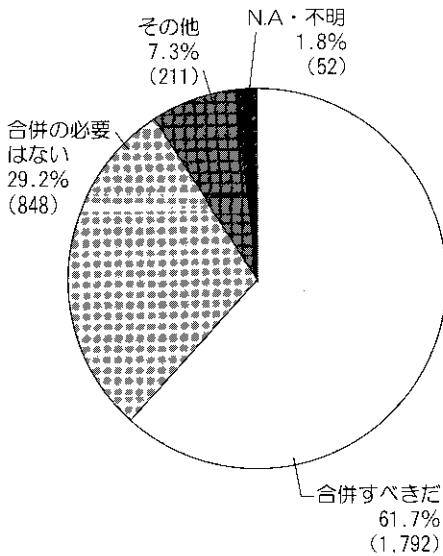
URL <http://www.d4.dion.ne.jp/~matudai/>

合併に関する 住民意向調査から

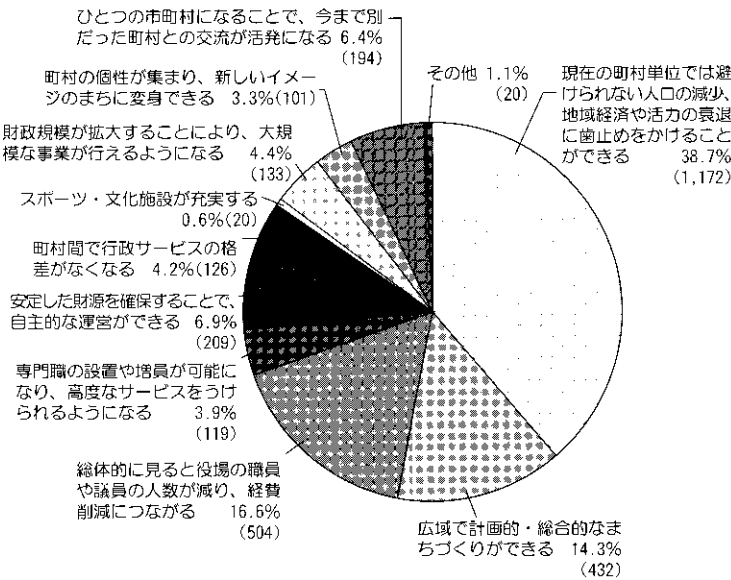


住民の意向を把握するために、昨年12月に「合併に関する住民意向調査」を行い、1月に回収しました。結果とあわせて紹介します。

問1 合併そのものについて あなたは、市町村合併についてどう思いますか？

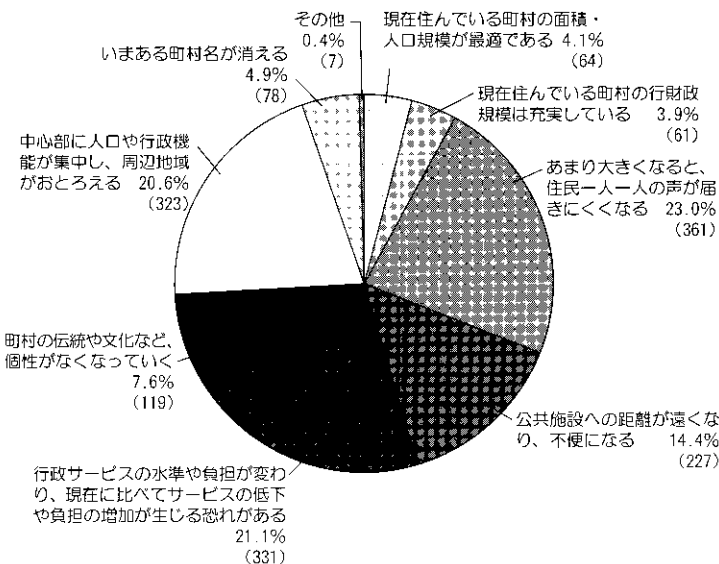


問2 「合併すべきだ」と思われる理由 あなたがそう思われるのはなぜですか？ (問1で合併すべきを選んだ方)

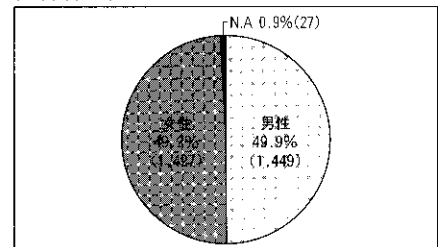


町全体のアンケート対象者数は、3,669人
今回14年1月に回収したアンケートは、前回(平成12年3月)と同じ、選挙人名簿登録者全員を対象として行いました。今回の対象者数は、3,669人で、そのうち2,998人から回答をいただきました。
回収率は81.7%
回答率で比較すると、今回の回答率は81.7%で、前回(平成12年3月)の回答率、78.6%より3.1%高い回答率となりました。

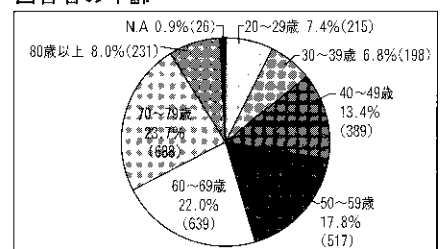
問3 「合併の必要はない」と思われる理由 あなたがそう思われるのはなぜですか？ (問1で合併の必要はないを選んだ方)



回答者の性別



回答者の年齢



アンケートで寄せられた意見

アンケートで住民の皆さんから寄せられた意見を紹介します。多かった意見は、次のとおりです。①合併に関する情報の不足②合併後中央が良くなり周辺部が寂れる③伝統文化や特色等が失われるのではない④J Aの合併での反省点⑤合併先に対する不安でした。なお、意見を項目ごとにまとめてみました。

老後の負担に不安

いままで以上に生活がしにくくなる。老後は安心して暮らせるよう少ない負担であってほしい

合併の方法

吸収合併ではなく対等の合併を望む

合併の対象

景気の悪いところと合併すべきでない

サービス

合併しても細かいサービスが行き届くようにしてもらいたい

除雪への助成

屋根雪除雪の助成等の継続

情報の提供

合併のシミュレーションを示すなど情報がほしい

新しい市の計画づくり

教育を柱にした新しい市を建設していくよう計画をつくるべき

国の方針に反対

国・県の合併の押し付けには反対する

合併対象

十日町との合併は利便性が向上するが、松代とは文化、気質が違う

町村の格差

合併した時点で町村間に格差がないようにしてもらいたい

新しい市の名称

合併後の名称は「十日町」にこだわらなくてもよいのでは。公募がよい

現有施設の統合後の不安

芝峠温泉、スキー場はどうなるのか、県立松代病院はなくなるのか不安。集落内の除雪はやってもらえるのか不安だ

若者の定住

お年寄りに金を使いすぎている、もっと若い人に対して目配りがほしい

ごみ処理について

方法が大きく変わるのだから、ごみの出し方についてもっと早く説明すべき

合併の区域

合併の区域が広すぎる。細かなところまで手が届かず、結果として年寄りが暮らしにくくなる

中心部を偏重

周囲の地域が山の中に取り残されることのないように

合併前提説に反対

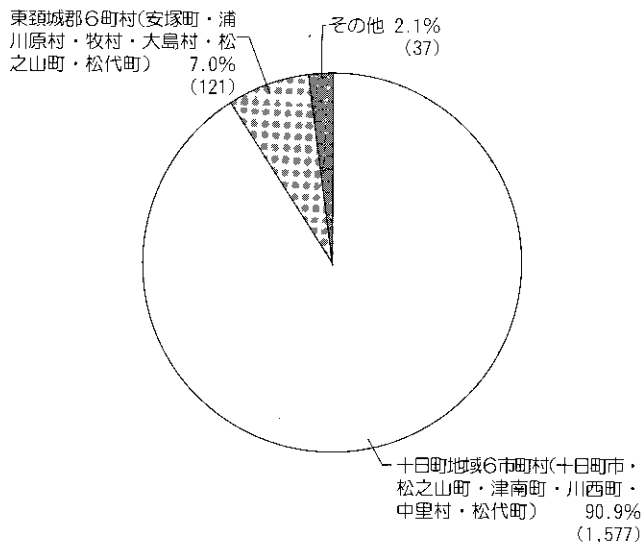
スリムな自治体づくりにばかり国は目を向け、負担が増え、サービスの低下が懸念される。合併は、車の運転ができない人には大変な負担となる

合併後の計画

合併することが目的ではない。合併後の行政のビジョンが見えてこない

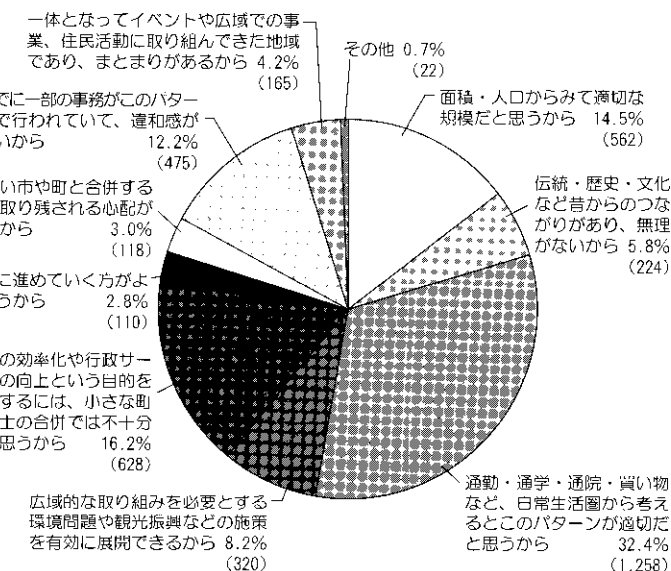
合併には反対

どこと合併しても大差がない。地球には小さくても人間が人間らしく生きている国もある



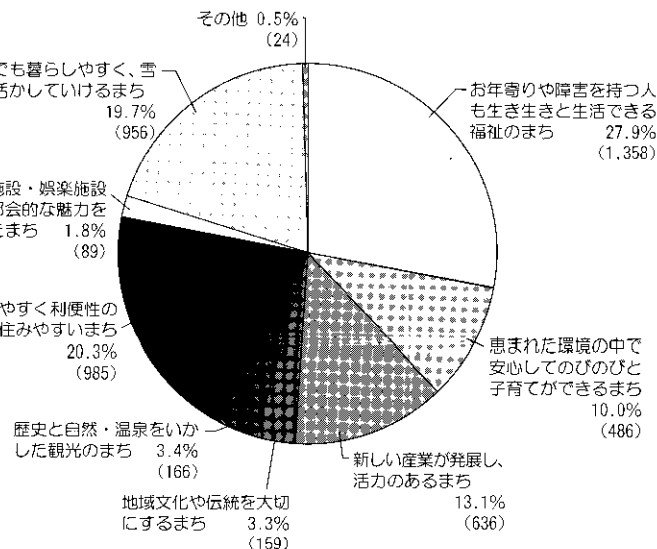
問4

合併パターンについて(問1で合併すべきを選んだ方)
松代町が合併するとしたら、あなたはどの市町村と合併するのが望ましいと思いますか？



問5

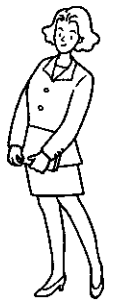
その合併パターンを支持する理由
あなたが、問4で選んだ市町村との合併が望ましいと思う理由は何ですか？



問6

理想とするまちの姿
これからどんなまちになっていくことが望ましいと思いますか？

合併、どうなるの



今回のアンケートと前回行ったアンケートと比較をしてみました。

前回の調査結果(平成12年3月)との比較から

「合併すべき」が1・6倍で「必要ない」・「その他」は減少

「合併すべき」との回答が大幅に増加(38%↓61・7%)し、「必要なし」は減少(36%↓29・2%)しました。また、「その他」と回答した人は大きく減少(26%↓9・1%)し、合併を肯定する人が増加している傾向となりました。

十日町広域圏への希望が圧倒的多数

合併の相手として十日町広域圏と回答した人の割合が多くなり、前回66%から87・9%となりました。また、東頸城郡と回答した人は21%から6・7%に減少しました。



今回の集計結果を男女別からみたら

男性は合併に対して肯定していますが女性は否定的でした

男性は、69・6%の人が合併すべきだと答えたのに対して、女性は必要ないと答えた人が35・7%となり、「その他」と答えた人の10・2%を

合わせると5割近くになり、合併に否定的でした。

また、女性の合併すべき理由の中で、「地域活力の衰退」と答えた人は70・1%と、男性の61・8%を上回る結果となりました。こうした地域への視点は、女性の合併に否定的な理由にも表れていて、「あまり大きいと声が届かない」と答えた人が43・3%、続いて「周辺地域が衰える」が37・3%、そして「サービス低下や負担増の恐れ」と答えた人が35・7%と将来の不安を懸念した回答でした。

合併について年代別にみてみました

20代と80代の人に消極的な意見が多い結果となりました

20代と80代の人に消極的な意見が多く、合併の「必要がない」と「その他」と回答した人は45%になりました。また、合併すべき理由では、全体に「地域衰退の歯止め」と答えた人が65・4%でした。この回答は、高齢になるほど多くなり、70歳代では71・6%となります。また、続いて20・30歳代では「総合的な町づくり」と答えた人が33%

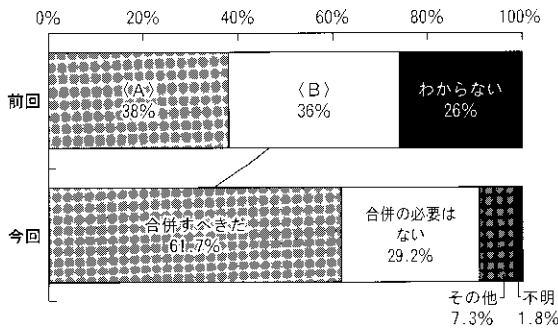
なのに対して40・50・60歳代では「経費節減」と答えた人が32・34%と、合併の理由には大きな違いもみられました。

20歳代の合併反対理由に「伝統文化や個性がなくなる」が3割

合併の必要なしと答えた人の理由では、40・50歳代の人には「サービス低下や負担増」への懸念を示した人が45%と55%でした。

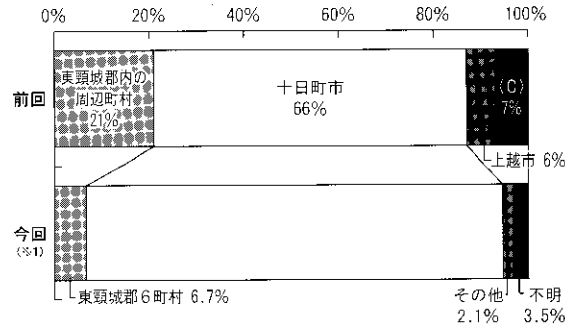
前回の調査結果(平成12年3月)との比較

●合併そのものについて



〔注〕
(A)…「積極的に合併すべきだ(11%)」+「将来、合併すべきだ(27%)」
(B)…「広域行政を充実すれば、合併の必要はない(23%)」+「合併の必要はない(13%)」

●合併パターンについて



〔注〕
(C)…中魚沼郡内の周辺町村と合併する(1%) + 「周辺町村と合併した後、周辺市町村がひとつになる(6%)」
※1…今回の調査結果で構成比の合計が100・2%になるが、これは複数回答が4件あったため。(構成比は「合併すべき」を選んだ1,792人を分母として算出している)

アンケートで寄せられた意見

現有施設の存続

芝峠温泉やスキー場は合併前に独立して運営できるようにしてもらいたい

周辺地域になってしまうことへの不安

十日町も周辺地域では10時ごろでもまだ除雪をしている状態だ。農協合併でJAまつだもさびれた。小さいもの同士の合併が本当はよいのでは

地域づくり

地域の特性を活かした町づくりをするには規模が小さいほうが良い

財政上のメリット

合併で財政が豊かになるとは考えにくい

合併には反対

将来性が感じられない十日町との合併は不安。十日町市からの働きかけもない状況も不安。

統廃合への不安

県立病院や県立高校の統廃合、町道の除雪が心配。町のイベントが地域のイベントになり、今後ますます役場職員のリードが必要になる

段階的な合併

松之山町と合併し、次に十日町市と合併がよい

町の先導性に期待

アンケートも大切だが、町のリーダーシップが必要。結果は「時」が評価する

道路改良

月池松代線・浦田池尻間の改良

職員の資質

役場職員の品位の低下がある。職員の待遇が良すぎる

長期展望で

目先のことにとらわれず長期的に考えて合併後の行政監視提案

合併後行政サービスに不公平が生じていないかどうかチェックする民間人による第三者機関の設置が望ましい（合併後5、6年）

支所機能充実

現在の役場で全部用事が足りるようにしていただきたい

特色性の維持

大きいイベントばかりに目を向けずに独自の特色あるイベントを大切に

職員の研修

各町村の職員の能力格差があるのでないか。資質向上のため学習会を

職員について提案

市町村職員は一家に一人はし、若者が定着できるように

議員選挙区制提案

市会議員については選挙区制が良い

合併までの整備

各集落ごとに必要なものは基金を取り崩してもやってほしい

合併対象

十日町市は産業や経済に活気が乏しいのが気がかり

交通機関整備

ほくほく線の特急停車を

行政経費削減

議員、職員の削減は合併に限らず必要だ

まつだの文化継続

今の松代町は独自の文化もありがんばっているまちというイメージがあります。合併するとその良さが失われるような気がします

職業別では「合併すべき」が多かったのは農林業の人の72・7%や公務員の69・1%、続いて主婦の55・6%でした。また、主婦の合併の

職業別では、主婦の4割が否定

町の将来像では60歳代以上の人は「福祉のまち」が53・65%と多く、20・50歳代では「利便性」と答えた人が34%・43%となり、続いて「子育て」について21・30%と高い割合となりました。

十日町圏域を選択した理由は「生活圏」を上げた人が69・9%と多く、20歳・50歳代はその割合が72%から77%と高い割合となりました。町の将来像は……

が圧倒的でした

また、20歳代では、「周辺地域が衰える」が34・2%、「あまり大きいと声が届かない」が31・5%でした。そして、全体では、14%しかなかった「伝統文化や個性がなくなる」と答えた人が20歳代では30・1%と多かったのも大きな特徴でした。

十日町圏域の選択理由は「生活圏」をあげた人が圧倒的でした

理由として77・7%の人が「日常生活圏」をあげました。続いて「小さい町村だけでは不十分」が37・6%、「適切な規模」が32・5%となつて

合併希望先としての選択理由別では十日町圏域を選んだ理由は「生活圏」が圧倒的

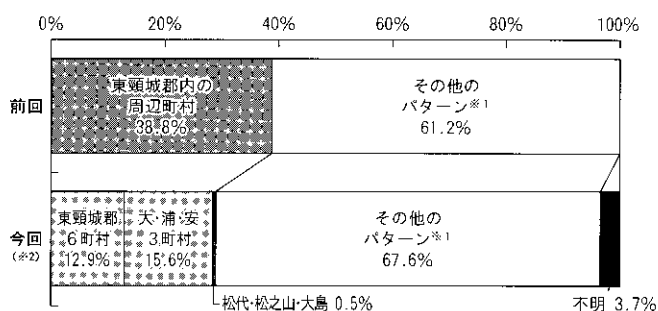
居住年数別にまちの将来像をみてみました。居住61年以上では「福祉のまち」が過半数を占めました。また、居住11・20年、21年・30年は「利便性」が35・45%と多く、居住6・10年は「雪を活かすまち」が37%でした。

居住年数別では、まちの将来像は「福祉」「利便性」「雪を活かすまち」

「必要ない」と答えた人は36・6%で「あまり大きいと声が届かない」が最も多く47・6%でした。なお、合併先で東頸城と回答した人で多かったのは、会社員の12・5%でした。

東頸城郡全体では

●合併パターンについて



〔注〕

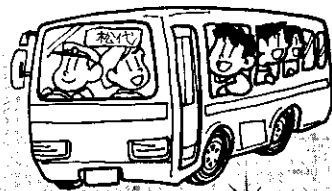
※1…上越市周辺市町村、十日町圏域など、郡外市町村を含む合併パターンをまとめて「その他のパターン」とした。

※2…今回の調査結果で構成比の合計が100.3%になるが、これは複数回答が26件あったため。（構成比は「合併すべき」を選んだ8,842人を分母として算出している）

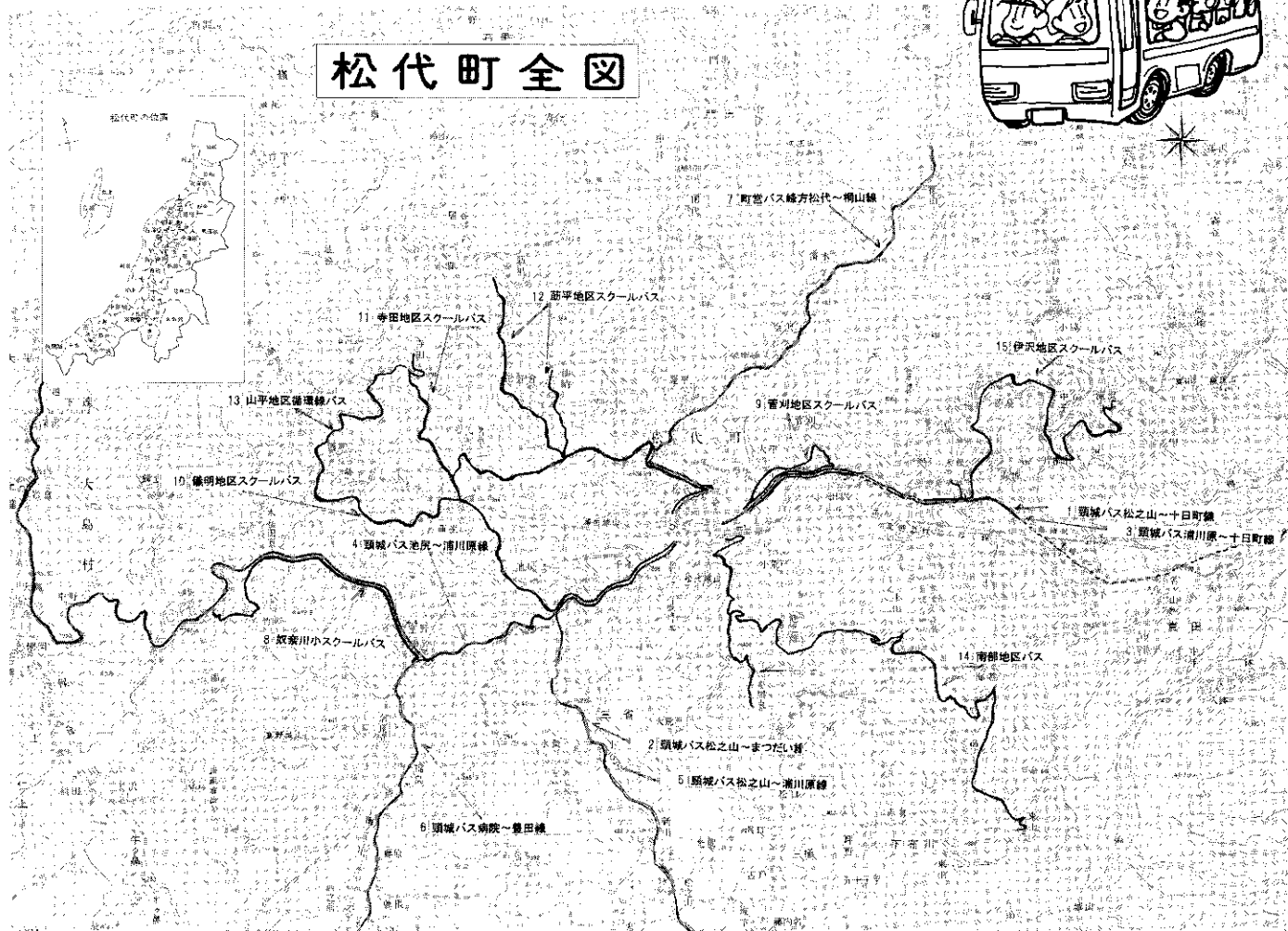
います。一方、東頸城と回答した人の理由として「伝統文化のつながり」が41・7%と多く、続いて「取り残される心配」が41・7%となり、この二つの回答に集中しました。

路線バスの運行について — 検討をはじめていきます —

町では、昨年12月に配布し、1月に「バスに関するアンケート」を回収しました。
アンケートの結果とあわせて、路線バスの制度改正について紹介します。



松代町全図



県の赤字路線バス補助の見直し

県は国のバス路線補助の見直しを受け、今まで行ってきた過疎地などを走る赤字バス路線への補助事業の見直しをすすめています。

現在のバス路線の状況

現在は、バス会社が赤字であることを理由に路線を廃止した場合は、県と市町村が補助金の1/2を出し合い、路線の維持に努めてきました。しかし、利用ルートが生活の実態に合わなかったり、利用する人が減少しているなどの問題も指摘されていました。

新しい制度の内容

新しい制度では、バス輸送に適した路線を基本にするよう見直されました。大きな改正点は、バス路線に対する県と市町村の支援する役割を明確にしようということです。地域の交通に対する交通政策は市町村が担い、広域的幹線となる路線を県として補助していくというものです。このことにより、廃止路線の代替バスに限らず、乗合免許路線以外の市町村が運行するバスも対象となりました。また、新たに路線を設ける場合も、生活実態に合った運行が確保されれば、補助対象となります。

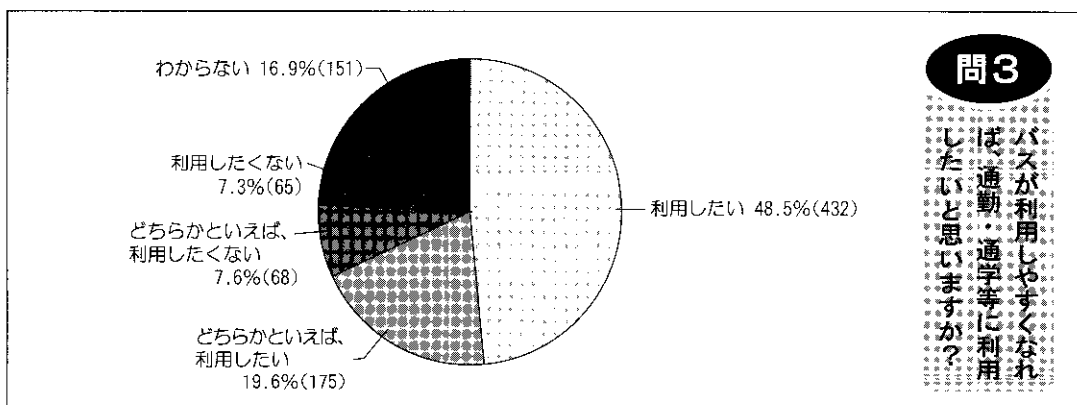
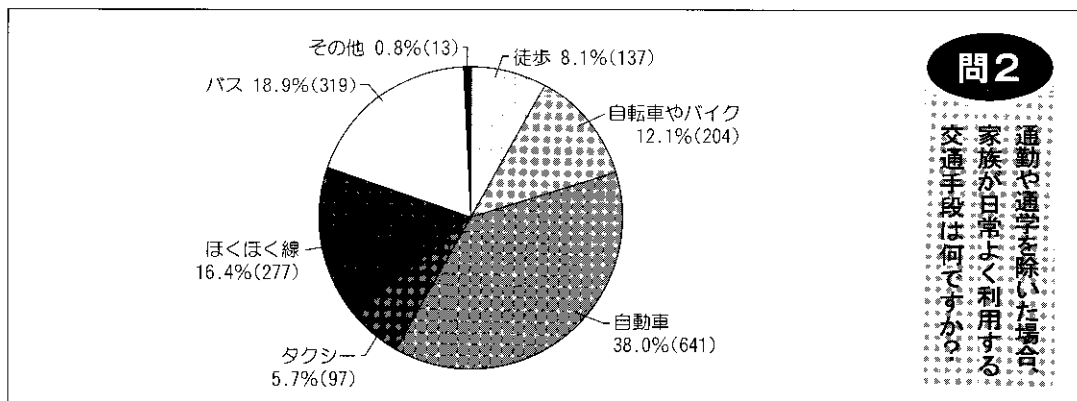
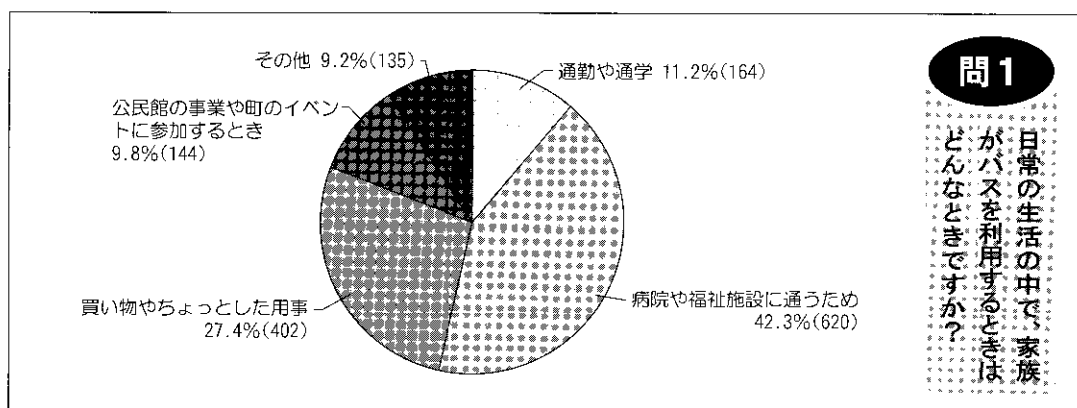
しかし、一方では、補助の対象となる平均乗車密度が15人以下から2人以上5人未満の運行路線が対象となり、下限が設けられるなど、従来のままで路線バスを運行するには、厳しい状況になっています。

県単補助制度新旧比較表

項 目			現 行 制 度	新 制 度
補助対象 運行系統	準幹 線的	平均乗 車密度	○平均乗車密度が15人以下の運行系統であること	○平均乗車密度が2人以上5人未満の運行系統であること
運行費	補助対象経費		○補助額＝系統毎の実車走行キロ×補助単価 (大型121.62円、小型93.11円) ただし廃止代替バス事業の経常欠損額を限度	○補助額＝系統ごとの実績経常欠損額 ただし、標準経常欠損額を限度とする。 標準経常欠損額＝標準経常費用－標準経常収益 ＝(キロ当たり標準経常費用250.7円×実車走行キロ)－(キロ当たり標準平均賃率51円×実車走行キロ×平均乗車密度＋運送雑収入＋営業外収益) ※キロ当たり標準経常費用、キロ当たり標準平均賃率は制度適用時に決定
	補 助 率		○県 1/2、市町村 1/2 県補助額は市町村補助額を限度	○同左

県が新しい制度を立ち上げるための支援方策

こうした事態を踏まえ、県は、市町村独自の計画作りと新しい制度に備えた支援を行っています。平成13年度にモデル市町村を選んで、乗合タクシーの導入やスクールバスの活用などの



新たな取り組みを行う場合、車両購入費などを補助するなどの支援策を打ち出しました。

町独自の運行計画を立てる

こうした中、町では、県のモデル町としての支援策を取り入れて計画づくりをすすめています。

ます。

町も厳しい財政の中で、どうやったら、より効率的な形で住民の生活に密着した交通を確保できるかを、またアンケートの結果や懇談会での意見を取り入れて計画づくりをすすめています。

地域ではバスをどのような形でしよう

路線地区単位でバスの懇談会

高齢化がすすむ中、町のバスは沿線地域の住民にとって大切な日常生活の“足”となっています。町では、利用の向上や使いやすいバスについて地域の代表の方と一緒に検討をはじめています。今回は、各バスの沿線区長の皆さんをはじめ、8会場で意見交換を行いました。

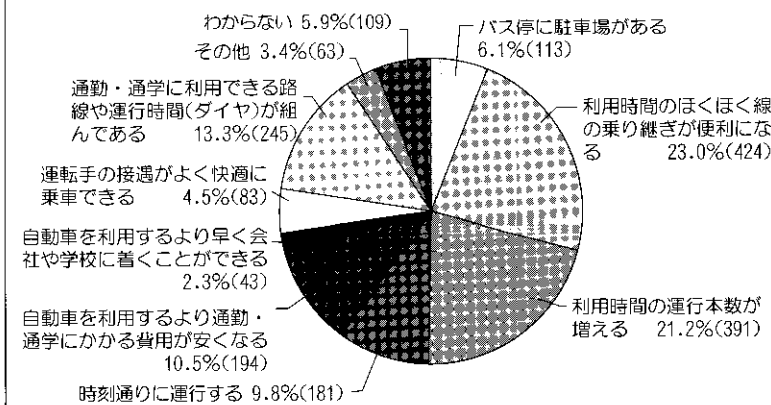
BUS……住民にとって必要な交通手段。ぜひバスを維持してほしい。

町では、1月に回収したアンケートで必要とする路線のルートを確認し、バス運行の時刻の見直しをすすめます。新しい時刻表は4月1日



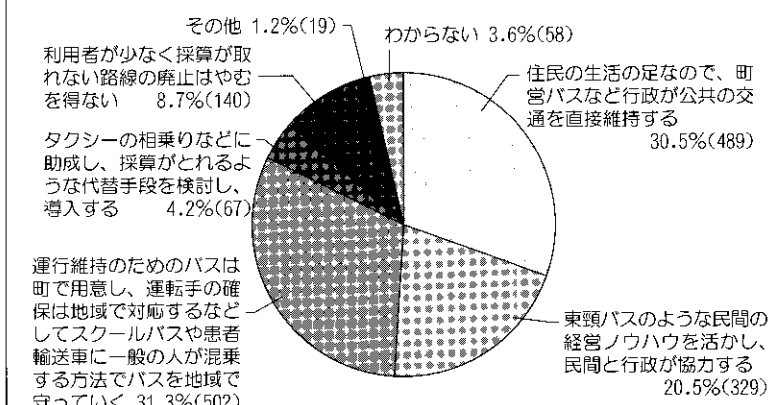
問4

バスのどのような点が改善されれば、通勤通学等に利用したいと思いますか？



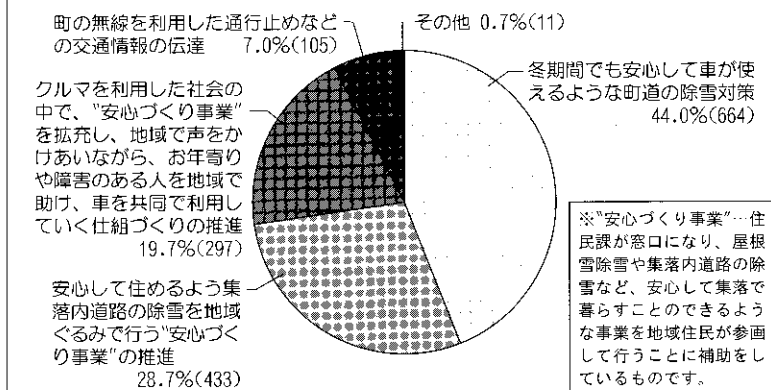
問5

今後、行政はどうした形で関わるのが望ましいと思いますか？



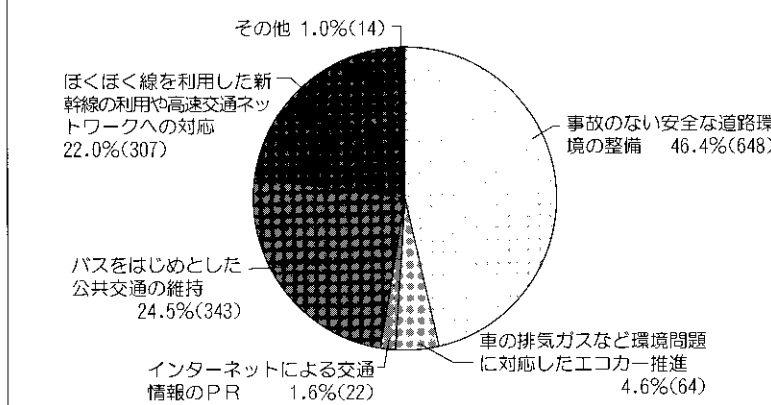
問6A

今後、町が交通への対策として、重点的に取り組むべきだと思うことは何ですか？
A 地域の課題への対応



問6B

今後、町が交通への対策として、重点的に取り組むべきだと思うことは何ですか？
B ほくほく線や高規格道路など交通政策への対応



アンケートの意見から

ほくほく線との連絡 ほくほく線ダイヤ、駅を中心としたバス路線とダイヤを編成してほしい

土・日の運行 老人世帯です。学校の授業のない日、又は祝祭日にはバスは走りませんが、年間無休で走ってほしい

運賃 路線バスと電車との料金の格差が大きい。

住民の意向を尊重して 山平線の廃止により山平方面の老人世帯は不便になりました。安易にバスを廃止した後、廃止する前に住民の意向を聞いていただきたかった。今後もお年寄りなどの弱い立場の方にこそ、便利な交通確保をお願いします

標識 頸城バス営業所前の町道の一方通行は守られない(標識が分からない) 折角国道を広く改良したのに不便

循環バスの運行 のっとれ松代城の時のシャトルバスの運行を広範囲に運転してほしい
スクールバス スクールバスの時間の延長(特に小中学生の部活にあわせた時間)

遅い時間の運行 遠方の集落の人でも最終時間が遅い運行便があれば利便性が高まり、住み良い町になる。上越方面への直通の復活。

運行本数 採算がとれない路線もあると思いますが、車を持たない私は(老人)バスの本数がもう少し増えることを希望します。

土日の運行 ② 山間地内のバスを土日にも最低2往復くらいは通してほしい。自動車のない年寄りや女性は土日には松代町まで出て来ることができない

運転員の教育 安心して乗れるバスとして、ドライバー教育をお願いします。人命を扱う運転士として県事故防止対策センターの適性検査を初年度及び3年～4年に1度受講し、長所は生かし短所は是正する教育を希望。

経路の検討 路線バスとしての住民の希望にそったルートを希望する

バス路線の存続 車の運転が出来ない人や、各集落住民の足としての交通手段であるバスをなくすことはいらないほしい

現状の課題が多い 本数が少ない待ち時間が長すぎる、料金も高いのでお客数が多い時は大型車、それ以外は小型化(今より小さい車輛)にしたらどうか。

回数券 バスの回数券が10枚綴りでは少なくて病院などに通うのが不便。ほくほく線はとも良いと思っている

乗車イベント バス・ほくほく線に感謝の日を定め、全住民が年間1度くらいは利用するように心掛けては?

スクールバスへの一般乗車 通学の他にバス利用するのは、各集落から松代に用事で来る老人が多いので、スクールバスの廃止はさけてもらいたい

除雪、そして公共交通の維持 日々の交通事故がほとんど自動車となっているのが現実です。そのため冬の除雪体制をしっかりとお願いしたいと思います。しかし、公共交通の維持も図っていかないと過疎化に歯止めがきかなくなるのではないのでしょうか。

運転員のマナー ほくほく線の運転手さん達は地域に根ざしていつも乗客に親切です。バスの運転手さん達にもより一層の親切、そして、人間味あふれた言動をお願いしたい



に各戸に配布します。

BUS 町にあるスクールバスや患者輸送車。こうしたバスの有効利用をすすめてほしい。

町のスクールバスは6台、患者輸送車は2台、そして町営バスが1路線走っています。スクールバスなどこうしたバスを路線バスとして有効な利用をすすめています。

BUS 小さいバスなど効率的な運行をすすめてほしい。

現在、29人乗りの中型バスが6台、14人乗りの小型バスが2台運行しています。朝と夕方は、登下校に利用し、それに加わると、ほとんど空席はない状態です。しかし、空き時間を運行する時間帯のバスの利用は落ちます。そうした空き時間帯のバスの利用は小型バスにするなど、利用に応じたバスの運行の検討をすすめています。

BUS スクールバスの運転員が一人で不安。交替できる人を確保してほしい。

町では、スクールバスや患者輸送車のバスの運転員をそれぞれの地域で確保をしてもらうことを基本にすすめています。また、バスの運行が決められた時間に行われる必要があることから、沿線地域で連携が取れることが望ましいと考えています。特に冬の運行では、雪の支障を最少限に抑える必要があります。

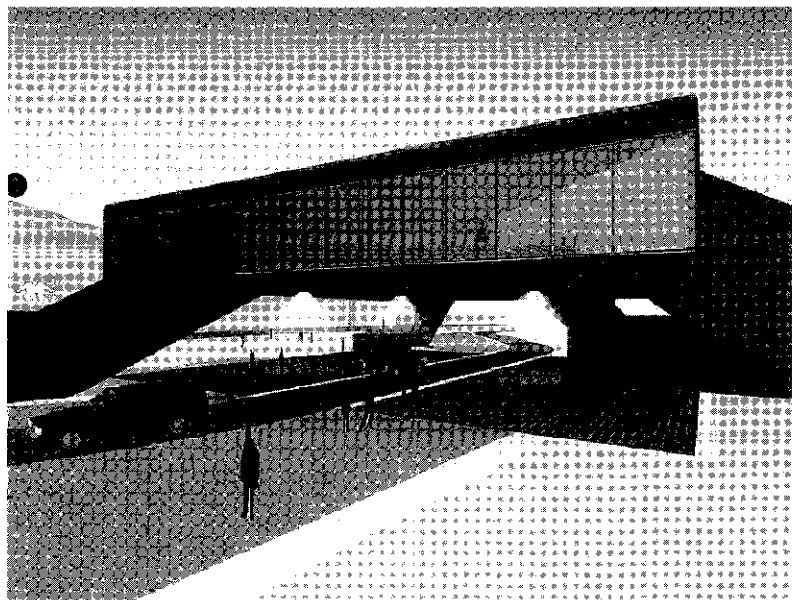
運転員が沿線地域内で確保できる地域については、常時運転をする人の人材を確保する組合を作る方向で準備をすすめています。

町では、アンケートの結果や懇談会での意見をふまえ、今後どうしたらより効率的な形で住民の生活に密着した交通を確保できるかを、町民の皆さんといっしょに考え取り組んでいきます。バスへの意見等は、総務課へお寄せください。

雪国農耕文化村センター(仮称)

雪国農耕文化村センター(仮称)

雪国農耕文化村センターは松代ステージの核となる施設です。目的は、豪雪の里村ではぐくまれた暮らしの「知恵」を現代芸術を切り口にして、わたしたちの地域を紹介していくというものです。



の概要



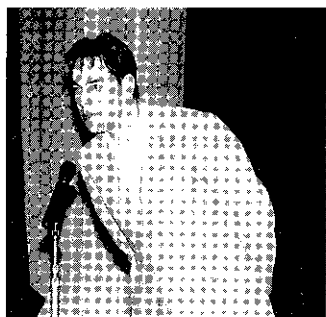
建築本体は、空中に浮かべた真四角の建築躯体を3本の足で支えます。支える足の部分は外からの通路の役目を果たすもので、作品の展示廻廊としての役割も果たします。この通路で本体を持ち上げることによってできるピロティ部分はコンサートなどの会場として利用することができることになっています。また、建物の中には、雪国の農耕文化を紹介するコーナーや現代作家による作品展示のほかに、多目的展示室、そしてカフェや売店があります。屋上は庭を予定し、周囲の自然を配慮した建物となっています。

◆概要／基本設計MVRDV／実施設計CLIP／敷地面積9966㎡／延べ床面積2415・93㎡／構造S造一部RC造／竣工予定2003年3月

雪国農耕文化村センター設計説明会

「ヤコブ・ファン・ライスさん(37歳)を招いて」

2月14日、ふるさと会館において雪国農耕文化村センターの基本設計をしたオランダの建築事務所MVRDVの建築家一人、ヤコブ・ファン・ライスさん(37歳)を招いて「雪国農耕文化村センター設計説明会」を行いました。会場には町民50人ほどが集まりました。住民からは「大雪になっても建物は雪に耐えられますか」との質問にライスさんは「雪の対策に重点を置きました。構造の専門家と何度も議論して設計したので大丈夫です」と答えていました。また、「周囲の美しい自然をなるべく壊さずに、建物から見る眺めを十分確保したい」と話していました。



ヤコブ・ファン・

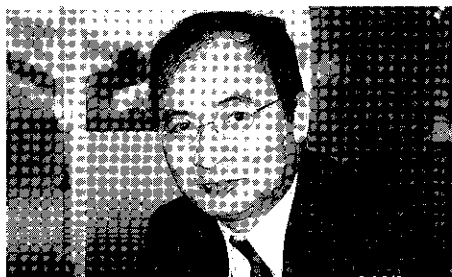
ライスさん

MVRDVの事務所には50人ほどの職員がいて、今回は、ヨーロッパ以外ではじめての仕事になり、ライスさんも「そういう意味でも特別な意味がある」と話していました。MVRDVの仕事では、ハノーバーでの万博の仕事が有名です。展示会場の仕事で、オランダのさまざまな面を見せられるよう配慮したものです。日本についての印象は「オランダは町が散在したようなところですが、日本は人口密度の高い国」。

北川フラムさんに 聞いてみました

「建物の外観は中間色です。しかし、大きい窓からは、中の様子が外からも見えます。中はカラフルなものになります」。建物は、駅に向かう通路もあり、ピロティは、雨があたらないので、使い方も多く考えられ、夜間は光を使った演出も可能なことから、コンサートや劇場としての機能があります。また、建物の中からカバコフの作品を見る場所もあります。北川さんは、「建物を通して自然を体験してほしい」と話していました。そして、建物の中には「魅力ある空間はアートで埋めています。教室などで体験する場のほか、廊下そのものが展示も可能」と話していました。

作家と地域の人たちの協働による、地域を活かした作品の展示が楽しみです。



作家と作品内容

作 家	設置場所	内 容
ファヴリス・イバール	ピロティー 床を陶タイルにより演出	演劇と音楽コンサートの屋外公演会場 多目的屋外イベント会場
河口 龍夫	展示室1（多目的室） 農具により空間演出	セミナー、ワークショップ、企画展示 など多目的空間
	展示室（教室） 昔の学校教室の演出	机毎に天板にはめこまれたモニターによる映像展示 レクチャー会場
ジャン＝リュック・ヴィルムート	展望休憩室 松代風景写真による演出	カフェ 体験調理工房
牛島 達治	ショップ・園芸コーナー 機械仕掛けによる演出	売店 園芸展示
藤本 修三	屋上庭園 芝生とベンチ	自然体感の屋上広場
ジョセップ・マリア・マルティン	展示回廊《外構》 松代の写真・音による生活文化の空間演出	通路 文化資料の展示空間
草間 彌生	花畑 オブジェ	体験農場 ひまわり畑、蕎麦畑など
小沢 剛	道具小屋	あずま屋
松田 重仁	イベント広場 ベンチ	休憩場所

主な事業内容

- ①農 業
体験農場・農業窓口（貸民家紹介・産地直売）
- ②イベント&展示
地域外の演劇と音楽のグループとの交流とイベント誘致
企画展示（誘致と製作）
- ③セミナー
体験学習の会場とソフトの提供
大学などのセミナーの誘致と共同企画運営
- ④空間貸出
ピロティー、多目的室、教室、調理実習室、体験農場の空間を貸出。

展示ではそんなことにも意識したようで好評でした。

農耕文化村で注意したことは「周りの自然を壊さないようにしました。また、建物を地面から持ち上げることで、気候条件に配慮しました。夏は、日陰をつくり、冬は雪に対して対応をしています。最初、松代を訪れたとき、高床式の家を興味深く見ました。基礎のコンクリートの上に家が乗っている感じでした。雪の持つ力、押しつぶされないような工夫を感じとり参考にしたい」と話していました。建物を持ち上げる発想が高床式住宅にあったようです。また「通路が橋のように縦横に走ります。持ち上がった建物は、天井構造が強いものになります」と話していました。

そのほかに建物の特長は「前面を窓にして、景色を一望できるようにしました。窓は大きなスペースを確保した」ことだそうです。周囲の自然を建物の中で見渡すことができるのも大きな特長です。

建物に通路が多いことも「建物への通路も色々な方向から入っていきけるよう、また、雪に対応し、冬でも中に入れるような工夫をしました。通路にあわせて建物の中の空間を作った」と話していました。設計に当たっては、高圧線が近いことなどいくつかの協議を経てきました。カフェ、展示室、多目的室などの機能をあわせ持つこの建物が、第2回大地の芸術祭の松代ステージのメインとなることに「屋上の庭園をはじめ、多くの作家の作品が作られることになり、楽しみ」と話していました。

今年で5回目

早稲田大学雪掘りツアー

2月8日から13日まで訪れていた「早稲田大学雪掘りツアー」には、今年は33人が参加しました。ツアーでは雪掘りをはじめ、町内で民泊をするなどの雪国を体験しました。

この「雪掘りボランティア」の取り組みは今年で5回目となるもので、早稲田大学ボランティアセンターの学生の皆さんが行っているものです。参加した学生の一人は「実際に雪国の生活を感じることができた」と話していました。また、民泊では「お客さんではなく、その家の子どものように接してくれたのがうれしかった」といった感想を話す学生もいて、日常では体験できない貴重なひとときだったようです。

今回の幹事を務める法学部2年の真保恵介さんは「参加した学生は、雪掘りというボランティアを通して、もう一步深い、人と人との交流というものを体験できたのではないかと話していました」。

また、6日間の交流の中で、「松代と早稲田とのつながりの重要性や、そこに期待されるものの大きさを感じとった学生もいたようです。町の社会福祉協議会をはじめ多くの方の協力に感謝しています。特に民泊では地域の人たちと直接話しをすることができました。こうした貴重な体験を今後の活動にいかしていきたい」と力強く話していました。

新潟県の除雪ボランティア“スコップ2002”も活躍

“スコップ2002”は新潟県の雪対策室がボランティアを募集して登録を受け付けているものです。2月13日には、日程の都合のついた12人が除雪ボランティアとして当町で屋根の雪掘りを行いました。



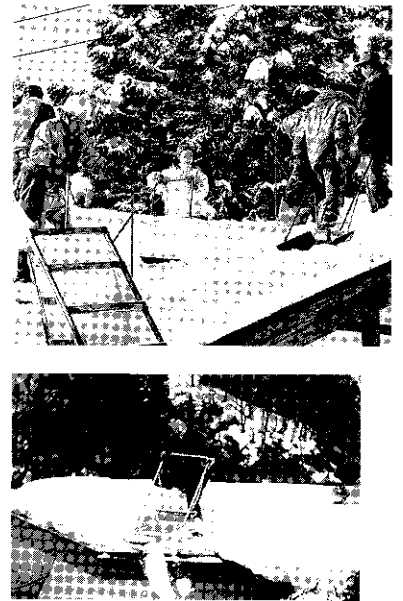
除雪ボランティアとして集まった12人は、県内外から集まりました。大島村の岩野正敏さんは「雪掘りの手伝いができればよいと思います」とボランティアの動機を話していました。そのほか、長岡市役所の職員のグループなどさまざまな人たちが参加をしていました。その中から、東京都内から初めて参加したという松田英一さんに話をうかがいました。

松田さんは、夏には富山県内で「草刈り十字軍」と呼んでいる杉林の下刈りのボランティアに毎年参加していて、「大きな鎌で草をなぎます。力仕事ですが、ボランティアとして集まる人たちと、同じ

汗を流しながらの交流は充実しています」と話していました。今回の除雪ボランティアには初めての応募。「ボランティアで集まる人たちは、小さいかもしれませんが役に立とうという意識をもって集まっています。そこで出会う人との時は何よりもかえりたいものがあります」と話しながら、屋根でスノッパをうまく使いこなす姿は、初めてとは思えない身のこなしでした。午前中いっぱい予定した家の雪掘りを終了。短い時間ながらも、参加した人と一緒に「雪掘り」をした感想を、「今回のボランティアでは、道具の使い方を学んだり、楽しい体験でした」と話していました。

松田さんは、数年前から足立区の日本語講座の先生をしています。「仕事で海外で暮らしたときには、その土地その土地で現地の人にお世話になりました」と話しを続け、「日本に来る人たちに少しでも恩返しをしたい」とその動機を語ってくれました。

若い人たちについて、「若い人は色々な言われ方をされますが、私の出会う人たちは皆さんとても意欲的です。一人ひとりが目的を持ちながら学ぶ姿に、私自身学ぶところがあると感じています」と笑顔で話していました。



八王子市職員も 雪掘りで交流

2月17日、田沢で八王子市職員組合の皆さんが菅刈・田沢の人たちと雪掘りを通して交流を暖めました。

今回訪れたのは、八王子市職員の橋山信吾さん（31歳）ほか3人で、菅刈・田沢の人たちと交流を行いながら、雪掘りを同集落で行いました。橋山さんは「今まで高柳町で雪掘りのお手伝いをしてきました。こちらで市の職員組合が交流をしているということで、わたし達も松代町で雪掘りを通して地元の人たちと親交を深めたい」と話していました。地元の人も「雪の降る時期にきてもらうと本当に助かる」と話していました。また、橋山さんも「計画する日程と雪の降り具合が気になります」と話していました。

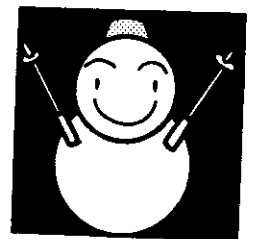
今回、初めての試みとなった「雪掘り」を通しての交流では、八王子の皆さんは田沢・菅刈の人たちと一緒にスコップを手に、談笑しながら汗を流していました。

民泊 ボランティア学生を受け入れて

今年早稲田大学の学生は10軒の家で民泊を体験しました。その中から、学生を受け入れて3回目となる東山の山岸益夫さん夫妻に話をうかがいました。



「とにかく楽しかった」と話す妻のヒサエさん。今まで男子学生を受け入れていた山岸さんでは、今年はいじめて女子学生を受け入れました。ヒサエさんは続けて、「男子学生は、どちらかというと犬の飲み友達です。それはそれで楽しそうです。でも、なかなか男の人はお酒が入るまでしゃべりません。ところが、女の人はおしゃべりです。夜遅くまで料理の話をしたり、折り紙を折っ



たりしました」と話していました。また、新聞に自分たちの雪掘りボランティアの記事を見つけたら大騒ぎになったりと「にぎやかで、しかも楽しい2日間でした」と話していました。

今回、山岸さん宅で民泊をした3人は、それぞれ今回の雪掘りボランティアではじめて知り合った者同士なので、「迎える方もなんとなく不安でした。でも、美人の娘が3人きたと思って、気楽にしてほしい」と迎えたと夫の益夫さんは話してくれました。

今まで泊まった学生の中には、春にはこの雪が消えたら、どういう風になるのか見てみたいと言いながら、毎年学生が訪れるようです。

「大臣や学者になったら、またおいでよと言ったら、そんなになる前に、また来るよと言って、ホテルを見たいと電話があつて、ひよっこりとやってくる。自分の子どもみたいな親しみもあります」と二人で笑いながら話していました。

今回泊まった学生の一人に「一人大学院で勉強を続けるというので、ゼンマイにどうして綿がついているのか調べて研究してほしい」と、ヒサエさんは伝えたとか。「今度会えるのが楽しみですよ」と話していました。





2月19日、室野で田舎体験の民泊受け入れ説明会が開かれ、受け入れを予定している16人ほどが参加しました。

最初に事務局の岡下観光係から14年度の田舎体験の受付状況について説明があり、日程の説明を受けた後、今までの取り組みを通して、意見交換が行われました。

参加した人からは、「もっと住民に田舎体験など民泊の様子を知ってもらい、関心を持ってもらうのも大切」といった意見も出ていました。事務局では、「東頸城郡の越後田舎体験推進協議会では、各種研修会を構成町村の会場で行っているの、事前に住民に知らせ、多くの人から参加してもらえるようにしていきたい」と話していました。

なお、自然観察インストラクターでは、表のような研修を予定しています。詳しいことは企画振興課までお問い合わせください。

越後田舎体験

自然観察インストラクター（自然案内人）養成講座のご案内

平成11年度から受入れをはじめた「越後田舎体験事業」も3年が過ぎました。年々増加している体験の受入で、自然観察ハイキングの指導をしてくださるインストラクターが不足しています。そのためのインストラクター養成講座を開催します。特別の資格は必要ありません。自然が好きで、山歩きが好きで、お話し好きの方からぜひとも、インストラクターとしてご活躍ください。ご自分の健康づくりと教養を高めるためにぜひともご参加・ご協力をお願いします。宿泊・体験施設関係の皆さんも、ご自分の施設の体験プログラムとして活用できるためにも、ぜひご参加ください。

*インストラクターとしてお願いする場合は、今現在半日7,000円、1日10,000円くらいのお礼をお支払いしています。

★参加は無料です。興味のある方大歓迎です。★

講座日程・内容

回数	期 日	テーマ・内容・指導者（予定）	会 場
1	3月23日（土） 13:00～16:00	「自然が好きですか？ 山（里）歩きが好きですか？」 ・スノーシューで雪の上の自然を楽しみます。 ・自然観察のポイントを見つけます。 講師：渡辺謙克（安塚町）	安塚町 菱ヶ岳周辺
2	4月中旬（平日） 13:00～16:00	「自然と人のいい関係」 ・フナ林を観察しましょう。・棚田が注目されているのはなぜ？ ・コミュニケーションのとり方。 講師：山岸秀夫（安塚町）、竹内 實（安塚町）、小菅江美（安塚町）	安塚町 石橋周辺
3	5月7日（火） 9:00～12:00	「自然を分かち合いましょう」 ・自然を分かち合うための方法。 ・春のハイキングコースを歩きます。・野鳥を観察しましょう。 講師：村山祐一（松之山町）ほか	松之山町 大蔵寺高原
4	5月～6月で実際に受入れている日 *日程を後日お知らせします。ご都合のつく日にご参加ください。	「実際の指導方法を体験しましょう」 ・学校がたくさん来ています。実際指導している場面を見ながら指導の方法などを実体験しましょう。 講師：当日のインストラクター	各体験会場
5	6月5日（水）	「自然の中でのゲームを楽しみましょう」 ・ネイチャーゲーム、コミュニケーションゲームを覚えましょう。 ・木や土の秘密を知りましょう。 講師：豊岡明子（安塚町）、塩崎直二（浦川原村）、渡辺謙克（安塚町）	安塚町 グリーンパーク
6	7月14日（日）	「夏の動植物たちを観察しましょう」 ・動植物の季節ごとの様子は。・人と生き物の関係は。 講師：高橋八十八（松代町）、高橋洋一（十日町市）	松之山町 大蔵寺高原
7	7月で実際に受入れている日 *日程を後日お知らせします。ご都合のつく日にご参加ください。	「実際の指導方法を体験しましょう」 ・学校がたくさん来ています。実際指導している場面を見ながら指導の方法などを実体験しましょう。 講師：当日のインストラクター	各体験会場

参加申し込み 参加いただける方は、下記までお知らせください。7回とも参加されなくても結構です。ご都合のつく日にご参加ください。回の途中からでも参加いただいても結構です。ご連絡をいただいた方に詳しい日程をお知らせします。

越後田舎体験推進協議会 松代町企画振興課または雪だるま財団（TEL 02559-2-3988 FAX 02559-2-3324）

越後田舎体験に向けて……

—あなたも交流事業のインストラクターになりませんか！



下山生産組合が、

新潟県認定生産組織に

認定されました

認定式は、1月18日に県庁で行われたもので、新潟県が新たに認定した青年農業士、指導農業士、農村地域生活アドバイザーとあわせて行われました。写真左は、下山生産組合の組合長宮澤一慶さん、右は、農村地域生活アドバイザーの認定を受けた松之山町の福原よみ子さんです。



松代町から下山生産組合が県の生産組織の部で認定され、このほど認定証が授与されました。

県の認定制度は、生産組織強化指導事業の一環として持続性の高い経営感覚の優れた経営体の確保と育成を目的に行われています。郡内には、現在17の認定生産組織があります。

下山生産組合は、平成10年度に農林県事業に取り組み、農業施設と機械の整備をすすめながら設立されました。生産組織設立のために集落の話し合い当初から集落営農を最重要点に計画が作られ、その先見性には当初から高い評価がなされていました。また、南部地区で唯一の生産組織として他集落の作業受託も行い、農家の信頼を得ています。しかも組合設立当初から集落全戸が加入し、農用地利用改善組合を組織しました。集落をあげて作付栽培の協定を行うなど、農用地の有効な利用とあわせて、農業機械の効率的な利用を目的とした農業経営の改善に取り組んできました。

平成12年農林業センサスの調査結果では、経営耕地面積の減少率は、町全体の5・4%に対し下山集落は2・1%となっています。

こうした集落の取り組みが、耕作放棄の防止に効果を上げています。組合長の宮澤一慶さんは、「私達のような小さな集落の小さい生産組織が、県の認定を受けて驚いています。戸別対応のできる乾燥・調整作業が、一番作業量が多く、熟練したオペレーターを特定して品質向上に努めています。課題は後継者の確保です」と話しています。

町では、福島水稲生産組合、蓬平生産組合、滝沢生産組合の三つが、県の認定生産組織になっており、高齢化の進む中で他集落からの受託組織として、その役割がますます重要になっています。東頸城農業改良普及センターの小林東部班長は、今回の認定について「集落全体が山間急傾斜地の土地条件の中で、水稻栽培を通して農地の維持管理を行っています。集落農業の担い手として認められたもの」と話していました。また、農林課では「今後集落営農を担う生産組織は、ますます重要になってきます。町の農業振興を考えると、生産組合への作業委託が1集落から数集落の耕地に面的に広がるよう、条件の整備が必要」と話していました。



法月ゆりさん

作品「6フィート下から」が、芥川賞候補となった
法月ゆりさん。作品と法月さんを紹介します。

「6フィート下から」

作品は、「夕立が辺り一面を白くするほど飛沫を上げて降りしきってた」の書き出しにはじまります。

過去のしがらみを全て断ち切り、ニューヨーク州の山村で暮らす老人たち。その一人だった叔母の死を知らされ、日本から村を訪れた青年の数日間を描いたものです。作品は、雑誌「すばる」に掲載され、40ページほどのものです。

現在、ニューヨーク郊外で商社に勤める夫と暮らしている法月さんは「29歳のときに、突然、無性に何か書きたくなったのがきっかけでペンと紙を捜し出して書き始めた」と話しています。

97年に大阪に転居。そこで、大阪芸術大学名誉教授の山田幸平さんが教える創作講座で、「小説を書く」とはどういうことかが、少しずつわかったような気がしました」ときっかけを話しています。続けて、「小説を書くことを

軸に自分の生活を回してみようと考えたんです。ずいぶん楽になりました。以前なら迷っていたことでも、それは小説を書く上でプラスになるのか、マイナスなのか……そうした判断基準で、どんどん切り捨てられたり、あるいは拾い上げたりできるようになったと話しています。

98年には、「鳩よー」掌編小説コンクールで秀作に入賞。夫のアメリカ転勤に伴い渡米。同人誌「TRAVIEW(テラビュー)」を3人で創刊。誌名はギガの一つ上をいこうかとテラ(10の12乗)をタイトルに入れたもの。その創刊号が文芸誌「すばる」の編集長の目にとまり、作品を執筆することになりました。法月ゆりさんとの対談を掲載しているすばる2月号の中で、聞き手の細貝さやかさんは、「6フィート下から」の作品について「小説は風いだ湖面に落ちた最初の雪のひとひらが起る波紋にも似た、ほんの微かな心の揺らぎを表現しようと試み、成功した」と書いてい



ました。

作品は死という重いテーマを題材に、読む人を一気に引き込みます。この力は、故郷の雪が与えたのかもしれない。

参考図書 文芸誌「すばる」(集英社) 2月号

法月さんの実家となる松代の三笠屋さん。酒店を経営している関谷靖さんは「ときおりメールで連絡をやりとりしています。作品を書くことはプライベートなことですが、元気のようで何よりです」と話していました。

法月さんには、「ファントム達のサンクチュアリ」の作品があり、今までの作品を集めた本の出版も予定されているとのこと。今後の活躍が楽しみです。



雪が温かな交流の場になったヨ！

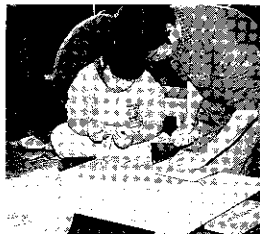
世田谷区教育委員会が主催する知的障害のある方を対象とした講座のいずみ学級の皆さんが当町のしぶみの家の皆さんと雪を通して交流を深めました。

今年で3回目となるいずみ学級の当町での交流には、世田谷からボランティアなど100人ほどが訪れました。

当日はみんなでかまくらも作りました。しぶみの家の皆さんも「これからは、相互で行き来しながら交流を続けたい」と話していました。

ほくほく線で松代体験

2月9日に行われた「ほくほく線雪国体験」には40人



ほどが群馬県などから参加し、松代の冬を楽しみました。今年2回目となるJRの企画は「1日で雪遊びと温泉、それにそば作りができる」とあって好評で、昨年に引き続いて参加する人もいて、松代のファンも生まれているようです。



中学生がボランティア

2月13日、松代中学の2年生の皆さんがほくほくの里でボランティアをしました。部屋の片付けの後、紙芝居や折り紙を披露。入所している一人は「生徒の活躍に大助かり。楽しい一日です」と笑顔で話していました。

出稼ぎリーダー会議

2月3日に都内の吉池デパートを会場に「出稼ぎ者現地リーダー会議」が行われ、東京都などで働く12人が職場の状況を話しながら、関谷町長とJA十日町の宮沢支店長と懇談をしました。

参加した宮沢広一郎さんは「建設業関連の景気は厳しいです」と話していました。会場では、



なじみの顔に話はずんできました。



写真のトコワラビ、「胞子葉が二つなのは珍しい。褐色なのは水不足や直射日光を浴びると起こる」と話していました。

なのだそう。

片桐良夫さん（清水）で梅の鉢にかわいいトコワラビが芽を出しているので、さっそくたずねてみました。片桐さんの梅の鉢、梅は今年で6年目となり、おじやましたときには、ちょうど花が満開でした。この梅の花はピンクですが、下枝の花は白です。片桐さんは「接木の台木が白かったのではないかと話していました。実は、変わっているのが、この梅の脇に赤いトコワラビが生えていることです。長さは5センチほどのもので、一つの株から二つの茎が伸びていました。

さっそく、高橋ハチ八さんにトコワラビについてお聞きしたところ「フユノハナワラビ」（冬の花蕨）というハナワラビ科の植物を、トコワラビと呼んでいるとのこと。また、秋にみずみずしい緑色の葉を広げ、茎の先端に粟粒のような胞子囊を付け、花に見立ててハナワラビ

おじやまして一枚

《釣りクラブ》

マツチ一本火事の元。空気が乾燥して火の用心

一、キスンの天ぷら
キスの塩焼き

ビール一杯健康の元

二、ハゼの天ぷら

ハゼの甘露煮

ビール一杯健康の元

三、サヨリの刺身に

一夜干し

ビール一杯健康の元

◆キス釣大会

○5月19日(日)

○幹事 柳 浩 佐藤嘉夫

◆ハゼ釣大会

○9月22日(日)

○幹事 片山徳重、宮沢長三

◆サヨリ釣大会

○11月3日(日)〜4日(祝)

○幹事 若月晃 笠原清

※釣りクラブでは本年から「女性の部優勝」を設けました。詳しくは幹事からご案内いたします。

・なぎの海 さやかな風に

身をまかせ ほうばる

にぎり 潮の移り香

・悩ましく しなる肢体に

魅せられて今日も逢いたい

シロギスに

浩作

◎申込みと問い合わせ

釣りクラブ会長 関谷孝 (TEL

0489-43-7376)

《観劇の会》

今年度の観劇会の予定は次の4回です。いずれも国立劇場。会員でない方もお気軽に早目に(2ヶ月前)お申込みください。料金は劇場でいただきます。

◆文楽

○5月19日(日)

午後4時〜7時30分

○演目 「菅原伝授手習鑑」今年

は菅原道真の没後千百年に当たり、記念の公演。菅

丞相(道真の敬称)ゆかり

の三兄弟の一人、松王丸が

自分の子供を身替わりにし

て丞相の若君を助ける「寺

小屋」の段は文楽屈指の名

場面。ご期待ください。

○出演 住太夫・玉男 養助・

文雀ら人間国宝。

○料金 5,200円

◆歌舞伎教室

○7月7日(日)14時30分〜17時

○演目 「仮名手本忠臣蔵」

五段目 山崎街道の場
六段目 勘平住家の場

おなじみ、忠臣蔵悲劇のヒーローの一人、早野勘平の物語。山中で自分が撃った鉄

砲が猪でなく舅に当たった

と思ひ込み腹を切る。真相

がわかり、息絶える。...

東京松代会「趣味の会」
あなたも参加してみませんか！



○出演 中村扇雀ほか

○料金 3,400円(パンフ、解説付)

◆歌舞伎

○10月6日(日)12〜17時

○演目、出演者 劇場で検討中、決定次第お知らせします。

○料金 5,600円

◆文楽教室

○12月15日(日)17時〜19時

○演目 「忠臣蔵」七段目一力

茶屋の場 仇討ちの本心を

かくして祇園で遊ぶ大星由

良之助の心境は？

○出演 文楽座

○料金 3,100円(パンフ、解説付)

◎申込みと問い合わせ

世話人 市川昭二 (TEL 03-

3999-3001) または

世話人代理 井上市郎 (TEL 0

3-3910-3899)

《ゴルフの会》

○4月4日(木)大宮G.C今年、

桜の花が満開か、あるいは

桜花乱舞の中でのプレーと

なるのか？

うららかな春の一日、のん

びりと歩いてみませんか。

○9月中旬 白河高原C・C

こちらは、二日間2R(一

泊)野鳥が賑やかにさえず

る大自然の中で、存分に楽

しんだ後、温泉につかって

心身ともに爽快な気分にな

れます。

◎申込みと問い合わせ

幹事 鈴木彦平 (TEL 049-

243-0981)

《カラオケ道場》

◆チャンピオン大会

平成13年度の大会は、11月

25日(日)、会員20数名が参加し、

新潟県人会館2階ホールで開

催しました。

高野秀作さんがチャンピオ

ンに輝きました。審査員には

山平地区出身の作詞家・斎藤先

生にお願いしました。特別出

演として、青江二奈さん、天

堂しじみさんのそっくりさん

においでいただき、楽しい会

でした。

本年も11月第3日曜を予定

しています。大勢の会員さん

のご参加をお願いします。

◎申込みと問い合わせ

会長 佐藤繁夫 (TEL 03-3

923-0969)

シロハラ



小鳥たちの中にもパソコンのインターネットのような情報網があるのでしょ

か。
松代の野鳥研究家の関谷八郎さんは、自宅に小鳥たちのために餌場を設置しておいては、訪れる小鳥を観察したり撮影したりしています。この辺にいる小鳥だけでなく、渡りの途中でここで一休みして、餌をご馳走になって行くよう

か。
意外な小鳥の姿が確認されて、今まで

にも何度も紹介させていただきましたが、今回はシロハラという渡り鳥の撮影に成功しました。シロハラはツグミ科の冬鳥として北方から渡ってきて、平地で冬を単独で過ごし、渡りのときは集団となって行動します。どうやって集まる合図をしあうのでしょうか。

地上で餌をあさるので積雪地では見られないとなっているのですが、関谷さんの所に行けば餌があるぞ、という情報をキャッチしてやってきたのでしょうか。

シロハラというのは腹の辺りが白いか、この名がついたのですが、別に夏鳥として高山に渡ってくるアカハラという小鳥もあります。これは腹が赤く、キヨロン、キヨロンと特徴のある鳴き声がしますから、登山されたときにこの声が聞こえたらアカハラだと思ってください。クロハラってえのがいるかって？ それは貴方の隣りにいる人のことではないですか？

これは冗談で、クロハラという鳥はいませんが、同じツグミの仲間でクロツグミというのがいます。夏鳥として、日中よくさえずって楽しませてくれます。

このようにして、関谷さんの餌場には、さまざまなお客さんが訪れるという楽しい貴重な場所らしいので、今後も期待されます。

今度のお客はどなたでしょう。

(文・高橋八十八)

横浜市本牧小学校、雪を楽しみ3年目

——かけはしをつかった小西良子さん——



今年で3年目となる本牧小学校のスキー体験は今年も2月の9日、11日にかけて芝峠に宿泊して行われました。

小西さんは、松代のマンバが実家。勤めていた本牧小学校の子どもたちに、何とか松代の雪を見せてあげたいという思いもあり、「PTAの事業として学校でスキー体験を行っていました。参加者は、

家族連れでPTAがスタッフとなり、日程調整をしています。やはり、子どもたちに十分に雪を体験してもらいたいと思いました。松代は、温泉もあり、スキー場もセンターハウスから滑る様子を楽しむことができ、親の方も助かります。そして、何よりも子ども達に好評です」と、話していました。「雪は楽しいんだ」と思うようになるまでには、スキーがある程度できる必要があります。「最初のときは、松代ともう一つ違う場所の2箇所で行いました。兄弟で別々の会場を選んだら、松代の方がいいという子どもの意見に、松代に一本化して、今回に至っています。家族で新幹線に乗るのをはじめで、いい体験になっているようです」と話していました。また、スキー場では千年の「やろね会」の皆さんのトン汁やおにぎりが大人にも子どもにも好評のようでした。

？なるの 完全学校週5日制

学校、地域、家庭

4月から新学習指導要領による教育がはじまります。あわせて、毎週土曜を休みとする完全学校週5日制もはじまります。
 松代町教育委員会の取り組みについてお知らせします。



学校教育での取り組み

部活動

部活動は、大会が近い場合のほか、季節や行事等で学校の実態に応じて柔軟にすすめていきます。また、部活動や行事でのスクールバスの運行について配慮していきます。

指導者

部活動の指導者は、地域の人（保護者）と学校職員とで連携を図りながらすすめていきます。

生涯学習（社会教育）での取り組み

生涯学習課では、次のような対応をすすめています。

地域行事への参加

子ども会や区など地域で行う行事への参加を働きかけています。

スポーツに親しむ

体育協会に所属する団体の少年向けて、各種スポーツ教室に親も参加しながらスポーツに親しむ機会をつくっていきます。

公民館の利用

「チャレンジクラブ」など公民館が行う講座を利用しながら、自然を体験し、学ぶ機会を提供します。

公共施設の活用

公共施設の活用を各種団体とすすめていきます。

総合体育館・図書館・生涯学習センター・青少年研修センター

松代病院だより ～エックス線とは…～

エックス線は、ドイツの物理学者レントゲン博士によって1895年に発見されました。「目に見えない光」、「未知の光」、「謎の光」という意味でエックス線と名付けられました。また、発見者の名前をとって「レントゲン線」とも呼ばれています。

エックス線は、テレビ、携帯電話、電子レンジの電波や暖房機具の赤外線、日焼けの原因となる紫外線よりもさらに波長の短い電磁波の一種で、透過作用があります。

では、医療用エックス線は、どのようにして発生させるのでしょうか。昔テレビやラジオの中には、真空管が使われていました。エックス線発生装置も、これらと同じようにエックス線管という真空管の仲間が取り付けられています。そのエックス線管に数万ボルトの高電圧をかけてやると、そこからエックス線が出てくるのです。

医療の現場では、エックス線は胸部や骨の写真を撮ったり、CT検査などに利用されています。病院へ行くと、先生が「レントゲンを撮りましょう」と言う何となくこわいと思われる方が多いかもしれません。エックス線の被爆により、発ガンの可能性があるのも事実です。しかし、医療現場で写真を撮るときに使うエックス線の量は極めて少なく、発ガンの可能性は十分少ないものとされています。

日常生活の中のタバコやお酒などで健康を害するのに比べたら、エックス線検査の危険度は決して高いものではありません。安心して検査を受けてください。

もう一度確認、ごみの出し方



いよいよ4月1日から、十日町地域衛生施設組合によるごみの収集が始まります。収集日や収集品目、そして指定袋などでごみの出し方がこれまでと変わります。各家庭に配布となる「ごみ便利帳」を利用してごみを出すことになります。

ごみを出す際に再確認
ごみ収集カレンダーを見ましたか？

ごみ収集カレンダーによって収集します。それぞれの品目について決められた日の朝8時30分までに収集所（「クリーンステーション」とも呼んでいます）に出してください。また、他の地区の収集所には出さないでください。

「ごみ便利帳」でチェック！

ごみの出し方やごみの分別等について記載された「ごみ便利帳」が各家庭に配布となりますので、参考にしてください。

燃やすごみと埋立てごみは違うヨ

燃やすごみと埋立てごみは分けています。混入することのないように気をつけてください。

組合指定の袋を購入のうえ

燃やすごみ・埋立てごみを出す際は組合指定の袋を使用してください。なお、現在の町指定袋は、燃えるごみ用に限ってシールを購入し、貼ってあれば使用できます。

町指定袋は燃えるごみ用のみシールで使用可

町指定袋を使用する場合には、表のシールを袋に貼ってもらいます。シールは町内の指定袋販売店で購入できます。

生ごみ対策は大丈夫？

生ごみは十分に水切りしてから出してください。

水分を多く含む生ごみは、焼却炉の燃焼温度を下げるダイオキシン発生の要因ともなります。生ごみには町の補助制度を活用

生ごみは家庭で処理をするよう、町の補助制度をご利用ください。

① 生ごみ処理機購入費補助

対象：電動生ごみ処理機及びコンポスト

補助額：購入費（消費税含む）の1/2で、上限は5万円（コンポストは3千円）

資源物対策はしていますか？

分別を徹底し、できるだけ資源物として出すよう町では取り組んでいます。

資源物としてごみを再利用することで燃やすごみ、埋立てごみとなる量が減りますので、皆さんのご協力をお願いしています。

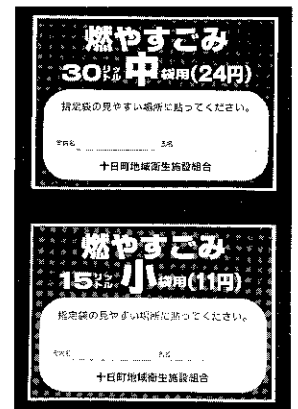
エコバックを全戸配布します！

エコバックを全戸配布します。買い物で利用をすすめる、不要なごみは出さない生活を普段から心がけたいものです。

松代のリサイクル物品保管所は閉鎖

リサイクル物品保管所（旧鉄道公団 事務所）は3月24日（月）で閉鎖します。今後は、地区の資源ごみの収集所を利用してもらいます。

詳しいことは住民課までご連絡ください。



町指定燃えるごみ袋		貼るシールの種類（消費税別）	
大	80cm×65cm	⇒	袋1枚につき青色のシール（1枚24円）1枚
中	75cm×50cm	⇒	袋1枚につき赤色のシール（1枚11円）1枚
小	65cm×50cm	⇒	袋1枚につき赤色のシール（1枚11円）1枚

ご存知ですか？ 介護保険サービスの利用料減額制度

町内や近隣市町村の社会福祉法人で介護保険のサービスを受けている場合、次のいずれかに該当する人は、利用料が半額になります。手続きは、担当するケアマネージャーにご相談のうえ申請して下さい。

対象となる人

① 町民税世帯非課税であって、老齢福祉年金を受給している人。

② 利用者負担が減免されなければ、生活保護受給者となってしまう人。

③ 町民税世帯非課税（施設入所者は、入所前の世帯を含む）であって、年金や恩給等の収入総額が次の人

A 施設サービス受給者は、年額42万円 B 在宅サービスについては年額45万円以下の人。
（本人の預貯金・有価証券等が200万円を超える人は対象となりません）

問い合わせと申請 住民課 介護保険係まで

短歌

淡海川朝靄湧きて兩岸は水
ひろびろし今日は立春

本山 祖道

暖冬を喜びながらも老農夫
は夏の天候の心配をする

市川 辰雄

闇をさく除雪車の音 午前
四時窓少し開け積雪を見る

笠原 トミ

展望はあたかも墨絵見るご
とし二月の雪晴れ芝峠の湯

柳 こめ

横殴りに降る雪のなか猫柳
尾を振り立てて花芽を抱く

野石 念

しづみ俳句会

口脚伸ぶ客くつろぎて帰り
けり 八千代

雪晴れや茶の間に弾む笑ひ
声 紅茶

珍客に炭つぐことも楽しけ
り 六花

御慶先づ述べ合ひ座る碁盤
かな 淡水

雪卸す道具を椅子に 一服す
枯水

保育園二日も早く豆を撒き
ひろし

松過ぎしことも忘れし老夫
婦 とし子

つれ立ちて歩きたくなる冬
日和 公鳴

雨音で朝寝決めこむ寒の間
草人

蒲生句会

辿り来し恙なき日や福は内
月 日

大杉のすつくと立ちし余寒
かな 鐵堂

菅笠を基石の如く雪さらし
耕人

新雪の深さに野兎の立ちも
どる 折人

熱き湯に雪入れさます露天
風呂 山路

猫舌のふうふう吹いてのつ
ぺ汁 翔山

父祖よりの艶もつ栴や年の
豆 耕山

風花やハモニカで吹く早春
譜 朴雪

かんじきを脱ぐしがらみを
解くごとく 龍峰

人口の動き

男	2,105人	(-1人)
女	2,207人	(+4人)
計	4,312人	(+3人)
世帯数	1,478世帯	(2世帯)
出生	5人	死亡 1人
転入	3人	転出 4人
(14年2月末日現在)		

編集室

今月号15ページで、下山集落の生産組合が新潟県の認定生産組織になったことを紹介しました。地域の励みになったことと思います。おめでとうございます。さて、下山では昨年の3月11日の「冬の陣」の時にはツバメが飛んでいたそうです。確か雪でしたが…。下山は春から夏にかけて、多くのツバメを見ることができます。ツバメにとっても桃源郷なのでしょう。宮沢宗二さんにお聞きしたところ、今年は、まだツバメを見かけていないとのこと。昨年の雪に、ツバメもちょっと調整しているのかもしれませんが。春の日差しで、雪と土が目まぶしいこの頃です。

戸籍窓

(2月1日～2月28日)

元気な良い子に(出生)

山本 琴葉^{ことば}・恭央・佳枝^{よしえ}さん
(松代 下町住宅)

関谷 実優^{みゆ}・敏郎・扶美子^{みづみこ}さん
(松代 下町住宅)

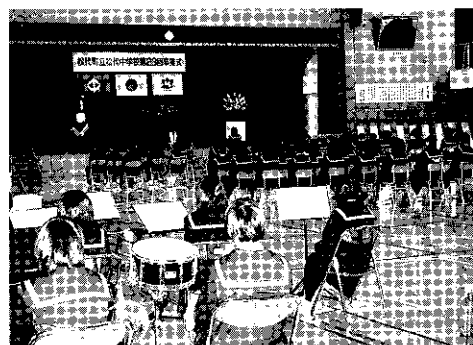
小島あゆみ^{あゆみ}・保男・美佳^{みけ}さん
(大伏・ちゅうえん)

山本 隆聖^{りゅうせい}・隆・ミイ子^{みいこ}さん
(大伏・よしや)

佐藤 幹太^{かんた}・翔伍・祐美^{すけみ}さん
(孟地・さとう建築)

市川長一郎^{ちやういちろう}さん
(太平・おき) 76歳

ご冥福を祈ります(死亡)



町の行事予定（3・4月）

3/20(水)	小学校終業式
21(木)	春分の日
22(金)	中学校終業式 小学校卒業式(松代小9:30 孟地小・奴奈川小10:00) 心配ごと相談 デイサービスS9:00～(斎藤)
23(土)	第5回まつだい駅まつり
24(日)	第5回まつだい駅まつり 第15回奴奈川雪上運動会 奴奈川小
25(月)	
26(火)	松代町消防団幹部会議 19:00 役場4階第1会議室 世田谷アドヴェンチャークラブ雪遊びキャンプ(26～29日) 世田谷区ジュニアリーダースキー合宿1(26～28日)
27(水)	世田谷区船橋児童館雪遊びキャンプ(26～28日) 世田谷東京おもしろ野外学校スキー合宿1(26～28日)
28(木)	松代保育園卒園式9:00 世田谷区玉川児童館雪遊びキャンプ(28～30日)
29(金)	大伏保育園卒園式9:00 室野保育園卒園式10:30 心配ごと相談デイサービスS9:00～(石黒) 世田谷東京おもしろ野外学校雪遊び合宿2(29～31日)
30(土)	
31(日)	
4/1(月)	
2(火)	
3(水)	
4(木)	全血献血 役場前 13:30～16:00
5(金)	心配ごと相談デイサービスS9:00～ 清明
6(土)	春の全国交通安全運動 ～4月15日まで
7(日)	
8(月)	各小学校入学式 中学校入学式
9(火)	
10(水)	
11(木)	乳がん・婦人科検診 総合体育館 12:30～
12(金)	心配ごと相談デイサービスS9:00～
13(土)	
14(日)	
15(月)	
16(火)	乳がん・婦人科検診 総合体育館 12:30～
17(水)	
18(木)	乳がん・婦人科検診 総合体育館 12:30～
19(金)	嘱託員会議 役場4階第1会議室 9:00
20(土)	穀雨

お知らせ

ほくほく線開業5周年記念イベント

まつだい駅まつり

今年も恒例の「まつだい駅まつり」がふるさと会館を会場に行われます。雪割草の展示会をはじめ多彩なイベントで皆さんのご来場をお待ちしています。

期日 3月23日(土)～24日(日)

会場 まつだいふるさと会館

内容 雪割草展示会・体験教室・物産展ほか

問い合わせ 企画振興課

もう一度時刻表を確認！ 3月23日(土)ほくほく線ダイヤ改正

警察官（特別試験）募集

新潟県警では、警察官を増員するため、毎年行われている通常試験とは別に、すでに大学を卒業した人を対象に警察官特別採用試験を次のとおり実施します。

受験資格

○警察官A（大卒の男女）

昭和47年4月2日以降に生まれ、4年生大学をすでに卒業した人、または平成14年9月末日までに大学を卒業見込みの人で10月1日から勤務可能な人

○警察官B（大卒以外の男女）

昭和49年4月2日から59年4月1日までに生まれ、10月1日から勤務可能な人。

ただし次に該当する人は受験できません。

①申し込み時に高校在学中の人②4年制大学をすでに卒業した人や平成14年9月末日までに大学を卒業見込みの人

受付期間 3月26日(火)～4月19日(金)

1次試験 5月19日(日)

問い合わせ 安塚警察署（TEL 2-0110）またはお近くの交番、駐在所まで

大正医院が閉院します

あわせて室野診療所を当分の間休診とします

町内小・中学校の学校医や室野診療所の嘱託医を務める大正医院の関谷力先生の体調がすぐれず、3月末日をもって大正医院が閉院となります。あわせて室野診療所が当分の間休診となります。

なお、大正医院の窓口では、他の医療機関を利用される場合の相談をお受けしていますので、ご利用ください。

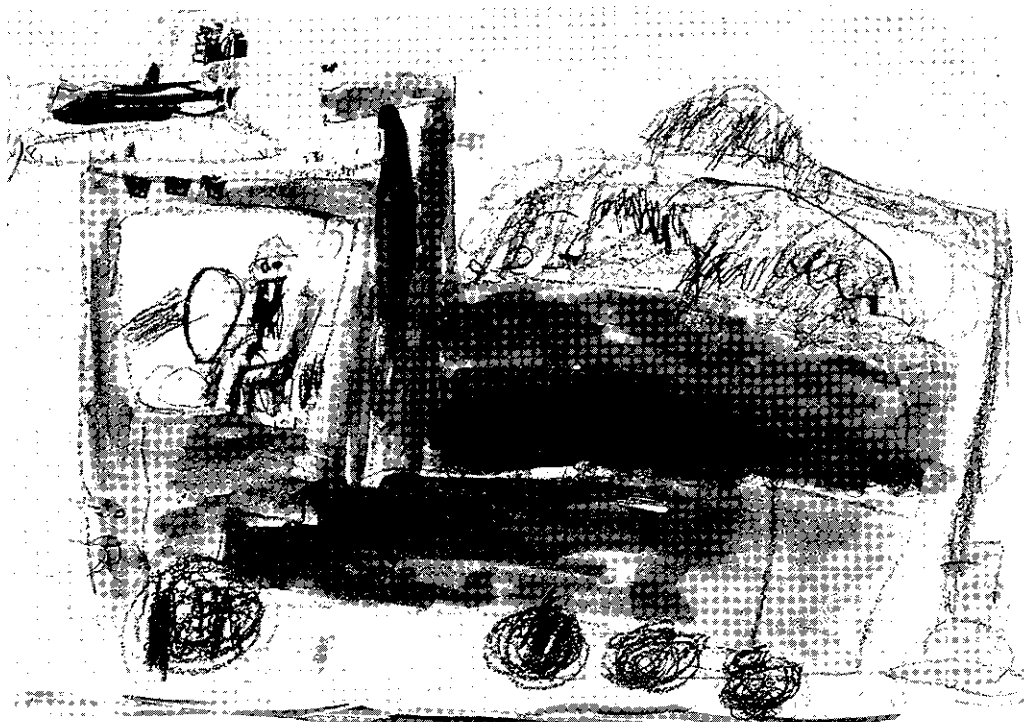
問い合わせ 大正医院（TEL 7-2011）

田辺飛鳥君（松代小2年）が 厚生労働省職業安定局長賞を受賞



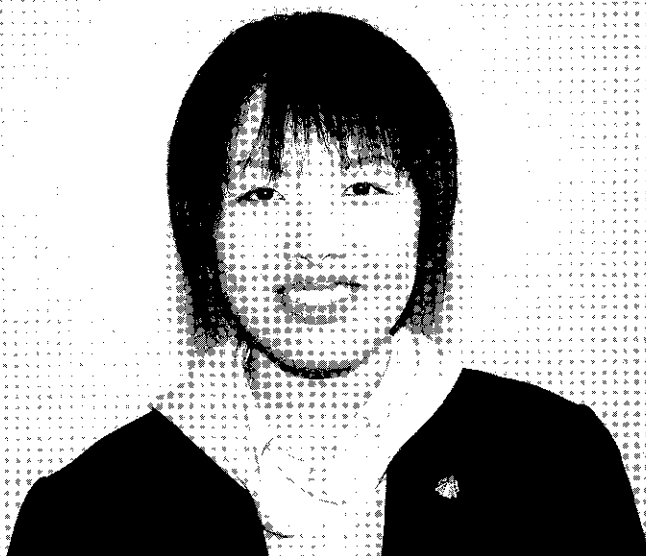
毎年、障害者雇用促進運動にちなんで行われている平成13年度全国障害児童・生徒等絵画展で厚生労働省職業安定局長賞を受賞した田辺飛鳥君（松代小2年）の作品を紹介します。

飛鳥君の絵は、「トラックで土を運んでいるお父さん」を描いたもの。もちろん、運転手は、飛鳥君の大好きなお父さんです。担任の樋口先生も「細かいところまでうまく表現されています。飛鳥さんの思い入れがうかがえます」と話していました。



国連ヤング大使の萬羽信子さん（松代高校1年）

今回は国連ヤング大使としてオーストリアに派遣される萬羽信子さんを紹介します。



全国から7人に選ばれた萬羽さんは、「個人的に見れば、薬物の使用は、使用した人本人が苦しむだけかもしれない。でも、結果は、家族や親友など、周囲の人も苦しむことになります。求められているのは、私たちの周りで薬物を使用しない環境づくりをすすめることだと思う」と話していました。また、今回の親善大使について、「同じ世代の人たちと交流を通して、日本と海外での薬物防止に向けた取り組みなどを学び、今後の自分の人生に生かしたい」と話してくれました。

お じ ゃ ま し ま す